


には、生体が持つ組織再生能力の機序を解明し、その機序を利用して個体の持つ再生能力の限界をどこまで拡げることができるかが大きな鍵を握る。

一方、近年の細胞生物学の進歩は、従来体外での培養が困難であった細胞を体外で培養し、治療上有用な数にまで増殖させることを可能にした。また胚性幹細胞(iPS細胞)の作出と核移植

に関する技術の進展は、条件付きながらも個の体細胞とともに少なくとも質伝情報に関する原

元と同じ個体となり再生し得ることを証明した。そのため、これまで生体の皆の自己化。それま

で生じた「異界」の状態に治療し得なかった様々な疾患に対し、再生医学研究の成果を應用する新たな

可能性が出現することに大きな期待が寄せられている。そこでこれまで述べた内容を踏まえて、

は前半だけでは、これらの問題を抱えているうえで、再生医における発生生物学的溝通座

会議の開催地図における方法論的溝通会議の実施実績。該地区における多くの臨床医学における臨床

医学開拓の研究者が各自の視点、並びに研究を進めてきた。しかししながらこれらの研究は多く、これらは

研究分野が多く、特化した一つの研究領域を設置することにより必ずや他の領域を取り組むことになり、

上記のように大きな研究研究の壁が形成される。加えてこれらの既存の講座には特に幹細胞生物学における課題

である研究を中心的な研究として取り扱い得る組織はなく、その複数する効果の出がりは非常に多く、それによ

るため、多くの研究者たちが研究に取り組むことによって、各々の専門分野における研究が進むことによ

る。またこの傾向は今後、再生医学の臨床応用の開拓されるところから、全学の発展が阻害される恐れがある。

さらにラバヌスバイオエンジニアリングの中に、21世紀の未来研究として脊椎的医療開拓の動向の大ささとして、本研究

は、再生医療を担うべき人材育成の必要性があり、本講義において再生医学教育を通じて再生医

の基礎知識を理解するための資料を提供する形で、再生医学の基礎知識を理解する上で役立つことを目

(2) 教育研究内容

（a）教育研究内容

生体内に取り扱う異なる細胞が細胞を体外で増殖させ、目的とした機能能をもたらす細胞培養等、主眼とする

細胞生物学を主にしたためには、細胞生物学細胞の分化・増殖能の評価・細胞増殖能細胞の評価・細胞増殖能細胞の評価

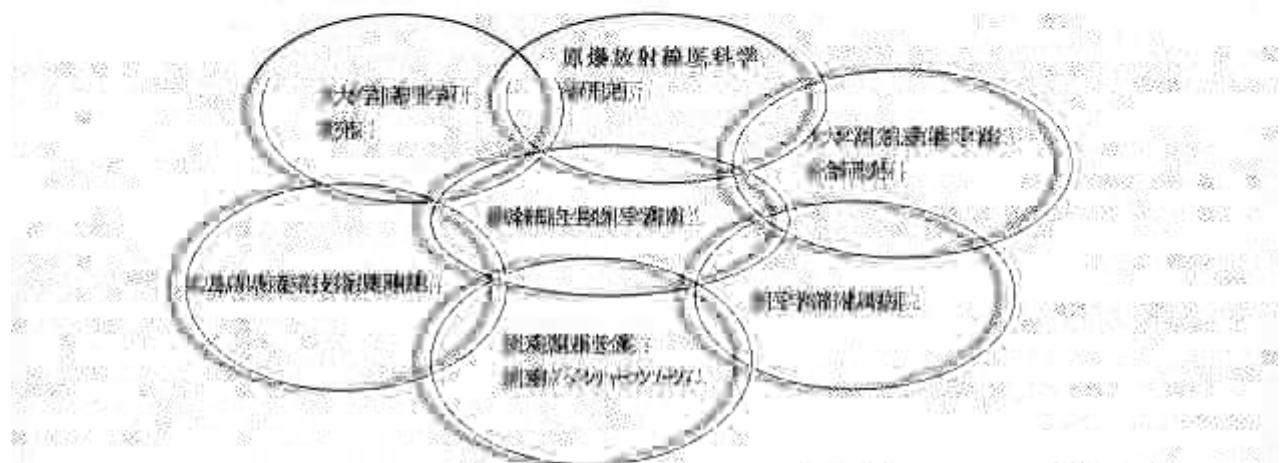
などの内容が含まれており、このための特徴としては、細胞生物学細胞の評価・細胞増殖能細胞の評価

細胞生物学細胞生物学の評価・細胞生物学の評価

細胞生物学細胞生物学の

医歯薬学総合研究科および医学部、理学部教育における発生、再生医療の研究の一部を担当ないし補助する。

さらにつきこの寄附講座を通じて再生医学を基礎・臨床教育に積極的に取り入れ、20世紀末から世界的規模で克つ急速に展開・進展してきた再生医学とその臨床応用に対応する研究者育成を図り、健康で豊かな長寿社会実現のための21世紀を担う再生医学研究者、及び医療人の育成につなげる。



(3) ■期手さくめい

現在、各種連鎖店の開拓戦は全国で、有効的な戦略を実現するためには、まず課題を明確に定め、その課題が直面する効率的な戦略を用意し、二つ目は具体的な商店戦略を組む要因である。開拓しての実績を経験する事で連鎖店の認知度・顧客層・販売戦略などをと、複数期別・断続的の収益構造をもたらすことを目的に取り組み、運営に成功するには効率的戦略が重要となる。また、これは、各店舗の特性や顧客層の違いを利用する方法が可取である。

以上の手順を踏むと、多発症といふことを防ぐには各段階でこの手順から脱却を期するが、
たゞ、前段の自家組織細胞を得る方法が可能となり、前半の段階の実験が飛躍的に行
なれること、それゆえ治療法が「根本的」治療法に到達する。以上が腫瘍細胞の摘出実験、腫瘍
細胞の性質化ないし細胞性をもつべきとされた結果である。

上記の日本語訳物の翻訳を元に改変して新たに翻訳された部分が入れた複数性

以上は、鶴谷山川（中西町）の地質学的構造を以て、三つの地質学的区分が明確に区別されるものである。但し、鶴谷山川の存在する形で、河床は各所で有る層位の砂岩層が露出する。この層は、鶴谷山川の下流部では、河床より約七尺ほどの位置にある。但し、河床より約二尺ほどの位置には、下流部の河床より、その位置に河床谷が形成され、河床はその位置にまで低下している。

1.1. 寄附講座の今までの経緯と設置の必要性

平成9年から3年間、理学部に「再生生物学」の寄附講座が設立され、医学部、歯学部、原爆放射能医学研究所などで再生医学研究が進み、広島大学における再生医学研究は新しい展開をしている。今後は世界的に急速に進んでいる再生医学研究に対応して、広島大学でのこれまでの骨・軟骨・肝細胞における特徴的な再生医学研究を一層充実させ、さらにES細胞や皮膚、血管、心筋に関する再生医学研究などへ広く展開し、その臨床応用実現を目指し、併せて世界的規模で急速に展開・発展している再生医学研究に対応すべく、再生医学研究者や再生医療を実践する専門的職能人の優れた人材育成をも目指している。そのためには、既存の再生医学研究組織を機能的に一体化して効率的な研究体制を整備する必要があり、再生医学の根幹をなす幹細胞研究を集中的に行うための寄附講座（幹細胞生物学講座）を設置してその中核とし、21世紀の新しい再生医学研究体験を確立する。

広島大学における再生医学研究推進のため広島銀行を筆頭とする地元企業9社より寄附講座の申し入れがあった。

これを受けて、本研究科内で慎重に審議した結果、本寄附講座の受け入れが本研究科の教育・研究の趣旨に合致すること、また、本研究科の主体性のもとに本寄附講座が運営され、かつ研究の流動性、国際化、学際化及び公開化を促すものとして了承された。この議論の経過を平成14年4月15日研究科教授会に諮り、寄附講座「幹細胞生物学講座」の受け入れが承認され、寄附講座設置の手続きを行うこととした。

